

中山間地域の活性化方策めぐり市に注文相次ぐ

市議会中山間地対策特別委員会で議論

中山間地対策特別委員会を8日に開催しました。この日は、市と財団法人地方自治研究機構が共同して行っている「中山間地域の活性化方策に関する調査研究」（報告書案）について市から説明があり、質疑や注文をしました。

この研究（報告書案）は、「上越市における中山間地域集落の現状」「上越市における中山間地域対策の現状」「モデル集落における地域活動・事業及び支援内容の検討」「集落における地域活動・事業を促進するための集落対策の方向性」の4章で構成されていて、委員会の中では集落対策の方向性に関して質疑や注文が相次ぎました。

委員からは、「ここでは方向付けとしてよく整理されているが、これからの進め方はどうするのか。問題は短期であろうが長期であろうか



実施計画だ。何をすれば集約されていけないか、いらない、不足しているのは雪に対する認識だ。この方向性が薄いのか、「集落維持」において一人ひとりが

冬期集落保安要員は県内6市町、37集落に33人配置

…新潟県の冬期集落安全・安心確保対策事業の今年度実施状況

新潟県が取り組んでいる冬期集落安全・安心確保対策事業の2012年度の実施状況が7日、県地域政策課提供の資料で明らかになりました。

この事業は、豪雪地帯における安全・安心な冬期生活を確保するため、市町村が行う冬期集落保安要員設置や克雪コミュニティ等による除排雪活動に係る経費、小型除雪機等の購入に要する経費を補助するものです。

資料によると、冬期集落保安要員を設置しているのは、長岡市、上越市、小千谷市、柏崎市、十日町市、津南町の6市町で、37集落に33人が配置されています。補助率は2分の1以内。補助限度額は1集落当たり上限50万円、下限10万円。全体の補助額は1325万円となっています。

上越市は中ノ俣・上綱子（合併前上越市）、上川谷（吉川区）、下川谷（同）、吉坪・切光（牧区）、今清水（同）、片町（同）の6集落10人です。

小型除雪機は、長岡市、糸魚川市、柏崎市の3市に8台が



配備されました。こちらは補助額は全部で389万円です。

（写真と記事は直接関係ありません）

3つの重点課題で政策提言目指す

さて、8日の特別委員会では今後の活動方針についても協議しました。特別委員会は来年の5月までですので、それまでにどんな課題で政策提言を行っていくか。協議の結果、特別委員

会が取り組む重点課題は3つに絞られました。重点課題その1……生活環境の向上。特に雪の中の暮らしを守り、豊かにすること。重点課題その2……産業の振興。特に農林業の担い手確保、中山間地で生産した農産物の買い上げ制度の創設。

予算議会は27日からの予定

3月定例議会が27日から始まる予定です。民主党政権から自公政権に代わって初めての予算議会です。真にデフレからの脱却を目指す方向での補正予算や新年度予算への対応、生活保護の削減に伴い予想されるサービスの切り捨て、総合事務所の見直し問題などに市民の暮らしを守る立場で取り組んでいきます。（仮称）厚生産業会館問題で新たな動きがありました。次号に記事を書きます。

春よ来い 第二四〇回 猫とシイタケと

二月の中旬のある日、久しぶりに母の定期検診の送迎をしました。この日の朝は冷え込みが強く、道路はどこも凍っていて、車を走らせるとガラガラ音がしました。朝の九時が予約の時間だったので、八時過ぎに家を出て病院へと向かいました。母を送迎していて、いつも楽しみにしているのは、母とおしゃべりです。母はちよつとしたことをきつかけにしゃべりだします。

頸城区のある動物病院のそばを通った時のこと、母は「ここは猫の医者さんこだな」と言いながら、わが家で長女が飼っている二匹の猫はこの動物病院で予防接種をしているらしいとか、普段の猫の様子がどうだこうだと語ってくれました。

猫たちは私に対しては警戒心を持って接してきますが、母とは相性がいいようです。特に、二匹の猫のうち一匹は信じられないくらい母と仲良しです。

雪が降り続いたある日のこと、家の二階屋根から雪が滑り落ちました。その瞬間の猫の様子を聴いて感心したというより驚きました。

「ドドンとナゼの音がすると、猫は目を丸くして、ひょーんとして、首をのばしてオレの顔見るがど」

母が語る猫の話は聴いているだけでも面白く、ナゼの音にびっくりした猫と母の様子が目に浮かびます。母はねずみ年生まれですが、猫たちは母を仲間だと思っているようです。

前回の「春よ来い」で書いた四十数年前の母の「シイタケ販売」についても詳しいことを話してくれました。

この話はわが家が蛍場にあった頃のことです。シイタケは、わが家の南側の山で栽培していました。通称、「むかい」という山の中腹辺りの場所になります。

父が種ごまを打ち込み、杉林の中にほだ木をおいたところ、ある年の春、食べきれないほどたくさんシイタケができました。それを母は当時の大潟町まで持って行って、一日がかりで売ってきたのだそうです。

聞いてびっくりしたのは、旧吉川町の中心部、原之町までバスで行って、そこから梶尾由で歩いて大潟まで行ったということでした。背中にシイタケを背負い、原之町から五キロはある大潟まで歩いて行ったというのですから、まあ、達者と言えは達者ではありますが、たいへんだっただろうと思います。

誰に紹介してもらったのでしょうか、母がめざしたのは石油会社のアパートだったといえます。たぶんT社でしょう。そこで一軒一軒チャイムを押し、「シイタケ、いんなんねかね」と聞いて回り、ほしいという家には棒ばかりで量り売ったということでした。

母によると、これらのアパートはいまはもうないようです。母は何回もここを訪れたようで、シイタケを売りに行き、顔なじみになると、「今度、アザミ持ってきてくれない。ノノバ持ってきてくれない」といった調子で、山菜や野菜についても注文をもらったといえます。

シイタケなどの販売では、値段はすべて母が決めたということでした。持って行ったものはいつも全部売り切れたそうです。どれほどの大きさのガマ口財布だったのかわかりませんが、持参したシイタケなどの販売が終わるころにはガマ口のふたがプチンとしまらなかつたとか。母はそう言ってフフフと笑いました。

ました。来年の楽しみにとっておきます。

新潟市で党議員研修会

新潟県内の日本共産党議員が新潟市に集まり、12日、13日と研修会を開きました。上越市議団からは公務があった上野議員は参加できませんでしたが、私と平良木議員が参加し、学んできました。

今回の研修会は3月議会を目前にし、議会にどう臨むかが中心です。樋渡県委員長等の報告の後、党中央委員会自治体局の今田吉昭次長（写真）から「安倍政権のもとでの地方財政」について講演してもらいました。「アベノミクス」の致命的な弱点、「地域の元気臨時交付金」の



きなど勉強になることがいっつもありました。

レルヒ祭に初めて参加

10日、初めてレルヒ祭に参加してきました。夏の金谷山は何度も訪れていますが、冬の金谷山スキー場は高校時代のスキー授業以来のことでした。本当は前日の花火も観たかったのですが、吹雪で断念しました。

この日はわずかの時間ですが、シャトルバスに乗って会場のスキー場へ行ってきました。天気は晴れたり、吹雪いたりで変わりやすかったにもかかわらず大勢の人たちでにぎわっていました。物産、食べ物等を売るテントもたくさん出ていました。

印象深かったのはスキーに乗っている人はわずかしかないなくて、スノーボード、そり遊びをする人がとても大勢であったことです。そりは子どもたちだけでなく大人も楽しんでいました。

私は目当てだったスノーモービルに試乗するために順番待ちしてみたものの、途中で吹雪にさらされ、あきらめ



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	2月6日(水)	2月13日(水)
上越南消防署	0.033	0.030
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.047	0.040
頸北消防署	0.050	0.060
頸南消防署	0.040	0.050
東頸消防署	0.043	0.050
高土分遣所	0.047	0.060
名立分遣所	0.050	0.043